



IDS-4210 の設置

この章では、IDS-4210 について説明し、さらに IDS-4210 の設置方法とアクセサリの取り付け方法について説明します。



(注) IDS-4215 は IDS-4210 に置き換えられ、現在では販売されていません。



(注) IDS-4210 を 2003 年 7 月より前に購入している場合は、メモリを 512 MB にアップグレードし、Cisco IPS 5.x をインストールする必要があります。詳細については、[P.2-4 の「メモリのアップグレード」](#)を参照してください。



(注) IDS-4210 は、インライン (IPS) モードをサポートしていません。

この章は、次の項で構成されています。

- [前面パネルおよび背面パネルの機能とインジケータ \(P.2-2\)](#)
- [メモリのアップグレード \(P.2-4\)](#)
- [IDS-4210 の設置 \(P.2-6\)](#)
- [アクセサリの取り付け \(P.2-8\)](#)

前面パネルおよび背面パネルの機能とインジケータ

図 2-1 に、IDS-4210 の前面パネルにあるインジケータを示します。

図 2-1 前面パネルの機能

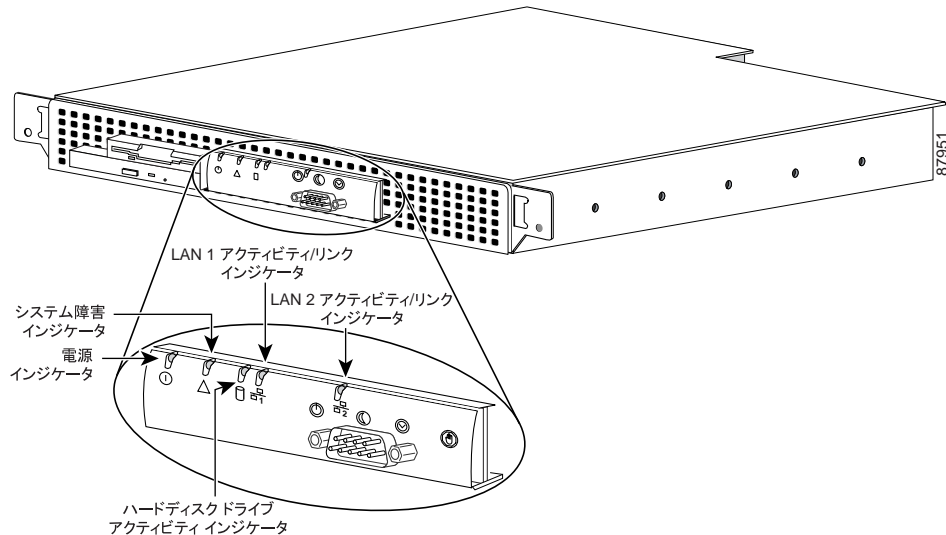


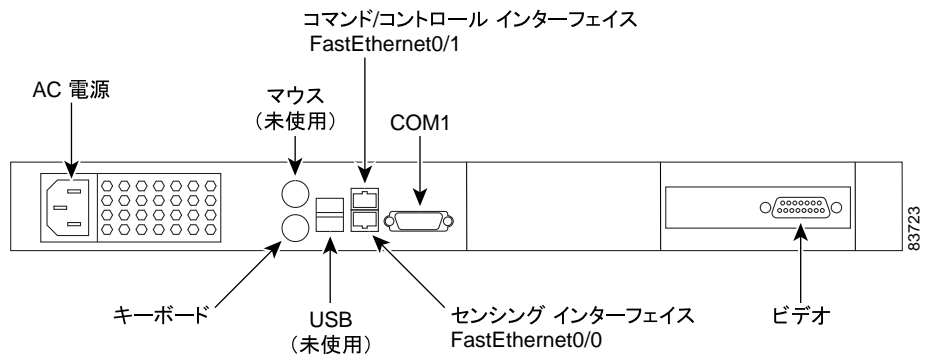
表 2-1 では、前面パネル インジケータの表示と機能について説明します。

表 2-1 前面パネル インジケータ

インジケータ	色	機能
電源	緑	システムが AC 電源に接続されているときに点灯しています。システムがスリープモードのときは点滅します。
システム障害	オレンジ	システムが起動中またはシステム障害が検出されたときに点滅します。
ハードディスクドライブ アクティビティ	緑	ハードディスクドライブがアクティブに動作しているときに点滅します。
LAN1 アクティビティ/リンク	オレンジ	LAN1 コネクタがイーサネットポートにリンクされているときに点灯しています。このチャンネルがアクティブに動作しているときに点滅します。
LAN2 アクティビティ/リンク	オレンジ	LAN2 コネクタがイーサネットポートにリンクされているときに点灯しています。このチャンネルがアクティブに動作しているときに点滅します。

図 2-2 に、IDS-4210 の背面パネルにある機能を示します。

図 2-2 背面パネルの機能



メモリのアップグレード

IDS-4210、IDS-4210-K9、および IDS-4210-NFR には、Cisco IPS 5.1 をサポートするために 512 MB の RAM が必要です。IDS-4210、IDS-4210-K9、または IDS-4210-NFR を 5.1 にアップグレードする場合は、256 MB の DIMM（部品番号 IDS-4210-MEM-U）を 1 枚追加して、最小限必要な 512 MB にアップグレードする必要があります。



(注)

サポートしていない DIMM を取り付けないでください。サポートしていない DIMM を取り付けられた場合は、保証の対象外となります。



注意

必ず『*Regulatory Compliance and Safety Information for the Cisco Intrusion Detection and Prevention System 4200 Series Appliance Sensor*』の安全についての警告に目を通してから、正しい安全手順に従って次の手順を実行してください。

メモリをアップグレードするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 CLI にログインします。

ステップ 2 アプライアンスの電源を切る準備をします。

```
sensor# reset powerdown
```

電源停止メッセージが表示されたら、ステップ 3 に進みます。



(注) IDM または ASDM からセンサーの電源を切ることもできます。

ステップ 3 アプライアンスの電源を切ります。

ステップ 4 電源コードと他のケーブルをアプライアンスから取り外します。

ステップ 5 ESD 対策が施された環境にアプライアンスを置きます。

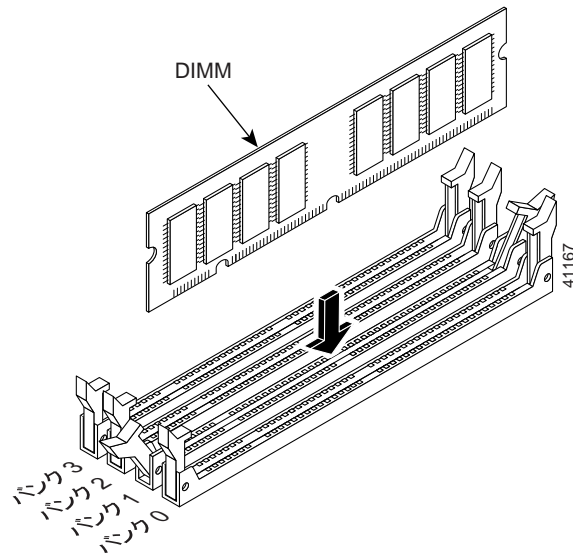
詳細については、P.1-27 の「ESD 環境での作業」を参照してください。

ステップ 6 シャーシカバーの前面のネジを外して、カバーを後ろに滑らせながら、カバーを取り外します。

ステップ 7 DIMM ソケットの場所を確認して、既存の DIMM の隣の空いているソケットを選択します。



(注) 既存の DIMM はソケット 0 に挿入されています。DIMM ソケットの位置が斜めになっているため、ソケット 0 に DIMM が挿入されていると、ソケット 1 への挿入が困難になります。したがって、既存の DIMM をソケット 0 から取り外して、新しい DIMM をソケット 1 に挿入し、次に、既存の DIMM をソケット 0 に戻します。



ステップ 8 DIMM ソケットの両側のイジェクタ タブを確認します。タブを押し外側に倒し、ソケット内のスロットを開きます。

ステップ 9 DIMM をソケットの所定の位置に差し込んで、新しい DIMM を挿入します。



(注) DIMM を無理にソケットに押し込まないでください。正しい方向だけに挿入できるよう、DIMM には位置合せキーがあります。力を加える必要がある場合は、イジェクタ タブを引き上げながら、両手の親指で DIMM をゆっくりと押し込みます。

ステップ 10 シャーシカバーを元に戻し、電源を接続します。

ステップ 11 センサーの電源を入れて、メモリの合計が正しく表示されるかどうかを確認します。



(注) メモリの合計が追加した DIMM を反映していない場合は、ステップ 1 ~ 4 を繰り返して、DIMM がソケットに正しく挿入されているかどうかを確認します。

IDS-4210 の設置



警告

この装置の設置、交換、保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030



注意

必ず『*Regulatory Compliance and Safety Information for the Cisco Intrusion Detection and Prevention System 4200 Series Appliance Sensor*』の安全についての警告に目を通してから、正しい安全手順に従って次の手順を実行してください。



(注)

IDS-4210 を 2003 年 7 月より前に購入している場合は、メモリを 512 MB にアップグレードし、Cisco IPS 5.x をインストールする必要があります。詳細については、[P.2-4](#) の「[メモリのアップグレード](#)」を参照してください。

IDS-4210 をネットワークに設置するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 IDS-4210 をネットワーク上に配置します。

ステップ 2 IDS-4210 に電源コードを接続し、入力電源（UPS を推奨）にプラグイン接続します。



(注) IDS-4210 を初めて電源に接続すると、一瞬電源が入り、NIC リンク ランプが点灯したまま電源が切れます。これは、正常な動作です。電源スイッチを押してシステムをブートします。

ステップ 3 デュアル シリアル通信ケーブル（PN 72-1847-01、アクセサリ キットに同梱）を使用して、ラップトップを IDS-4210 の COM1 ポートに接続する（端末設定のリストについては、[表 2-2](#) を参照）か、IDS-4210 にキーボードとモニタを接続します。

表 2-2 端末設定値

端末	設定
ビット/秒	9600
データ ビット	8
パリティ	なし
ストップ ビット	1
フロー制御	ハードウェアまたは RTS/CTS



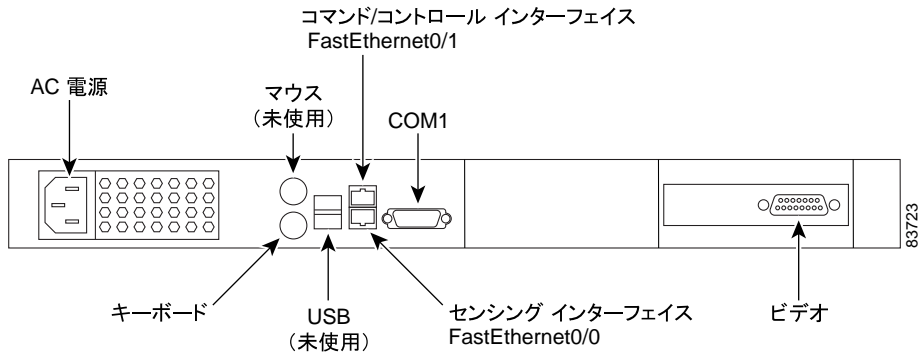
注意

一部のキーボードとモニタが IDS-4210 に適合しない可能性もあるので、キーボード / モニタよりもデュアル シリアル通信ケーブル（PN 72-1847-01、アクセサリ キットにある）を使用するよう推奨します。



(注) 180/ ロールオーバー ケーブルまたはストレート パッチ ケーブルを使用して、IDS-4210 を RJ-45 またはヒドラ ケーブル アセンブリが付属するターミナル サーバ上のポートに接続できます。M.A.S.H. アダプタ (部品番号 29-4077-02) を使用して、適切なケーブルをターミナル サーバのポートに接続します。ターミナル サーバのセットアップ方法については、P.1-15 の「ターミナル サーバのセットアップ」を参照してください。

ステップ 4 ネットワーク ケーブルを接続します。



IDS-4210 には、次のインターフェイスがあります。

- FastEthernet0/0 は、センシング ポートです。
- FastEthernet0/1 は、コマンド / コントロール ポートです。

ステップ 5 IDS-4210 のメモリをアップグレードします。

手順については、P.2-4 の「メモリのアップグレード」を参照してください。



注意

IDS-4210 上のメモリを少なくとも 512 MB 以上にアップグレードしてから、最新の Cisco IPS ソフトウェアをインストールする必要があります。

ステップ 6 IDS-4210 の電源を入れます。

ステップ 7 IDS-4210 を初期化します。

手順については、P.9-3 の「センサーの初期化」を参照してください。

ステップ 8 IDS-4210 を最新の Cisco IPS ソフトウェアにアップグレードします。

手順については、P.10-2 の「Cisco IPS ソフトウェアの入手方法」を参照してください。

これで、アプライアンスにおける侵入検知を設定できるようになりました。

アクセサリの取り付け

IDS-4210 には、ベゼル、およびセンターマウント ブラケットまたはフロントマウント ブラケットを取り付けることができます。

この項で取り上げる事項は次のとおりです。

- [アクセサリ パッケージの内容 \(P.2-8\)](#)
- [ベゼルの取り付けと取り外し \(P.2-8\)](#)
- [センターマウント ブラケットの取り付け \(P.2-9\)](#)
- [フロントマウント ブラケットの取り付け \(P.2-10\)](#)

アクセサリ パッケージの内容

IDS-4210 のアクセサリ パッケージには、次の品目が含まれています。

- Cisco IDS-4210 ベゼル
- 電源ケーブル
- ネットワーク パッチ ケーブル
- コンピュータ相互接続ケーブル
- デュアル シリアル通信ケーブル
- ラックマウント ブラケット
- マニュアルとソフトウェア
 - Cisco IDS リカバリ / アップグレード CD
 - Cisco Documentation CD
 - 『*Documentation Roadmap for Cisco Intrusion Prevention System 5.1*』
 - 『*Regulatory Compliance and Safety Information for the Cisco Intrusion Detection and Prevention System 4200 Series Appliance Sensor*』

ベゼルの取り付けと取り外し

IDS-4210 に Cisco ベゼルを取り付けることができます。

IDS-4210 においてベゼルの取り付けおよび取り外しを行うには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** IDS-4210 にベゼルを挿入するには、次の手順を実行します。
- ベゼルの下部のタブを IDS-4210 のスロットの位置に合せます。
 - ベゼルの両側のタブを IDS-4210 のスロットの位置に合せます。
 - ベゼルを IDS-4210 に押し込みます。
- ステップ 2** ベゼルの IDS-4210 から取り外すには、両側にあるタブを押してベゼルを引き抜きます。
-

センターマウント ブラケットの取り付け

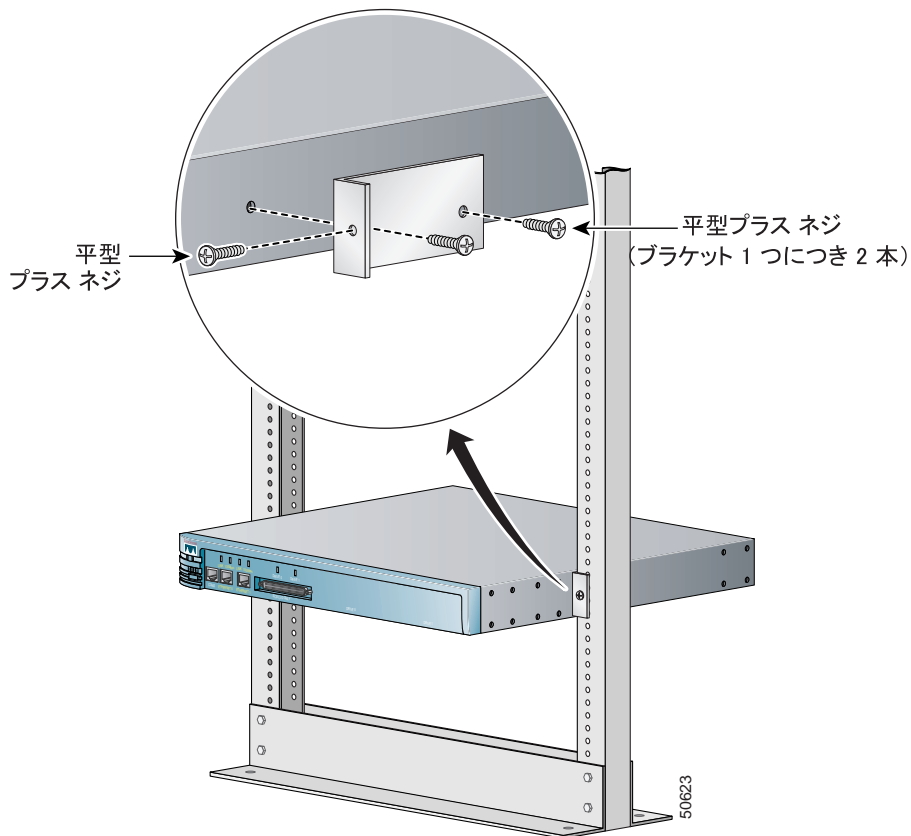
ブラケットを 2 本支柱オープンフレーム リレー ラックに取り付けるには、次の工具と部品が必要です。

- #2 プラス ネジ用ドライバ
- マスキング テープまたはフェルト ペン。取り付け穴のマーキング用

センターマウント ブラケットを 2 本支柱オープンフレーム リレー ラックに取り付けるには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** IDS-4210 を取り付ける位置を決定します。
- ステップ 2** 2 本の支柱上で上部の搭載位置と下部の搭載位置にマークを付けます。
- ステップ 3** 2 つのブラケットのうちの 1 つを取り出し、IDS-4210 の側面にあるネジ穴 2 つの上に合せます (図 2-3 を参照)。

図 2-3 センターマウント ブラケットの取り付け



- ステップ 4** ネジを 2 本使用して、IDS-4210 のシャーシにブラケットを固定します (図 2-3 を参照)。
- ステップ 5** ステップ 4 を繰り返して、IDS-4210 の反対側に残りのブラケットを取り付けます。

■ アクセサリの取り付け

ステップ6 IDS-4210 を持ち上げて、2本の支柱の間に入れ、ブラケットの穴を、2本の支柱に付けたマークより1つ上の穴に合せます（図2-3を参照）。

ステップ7 ブラケットを通して左右の支柱の前面の穴にネジを入れ、IDS-4210 をラックに固定します（図2-3を参照）。

フロントマウント ブラケットの取り付け

2本支柱オープンフレーム リレー ラックにフロントマウント ブラケットを取り付けるには、次の部品（フロントマウント ブラケット アセンブリ キットにあります）と工具があることを確認してください。

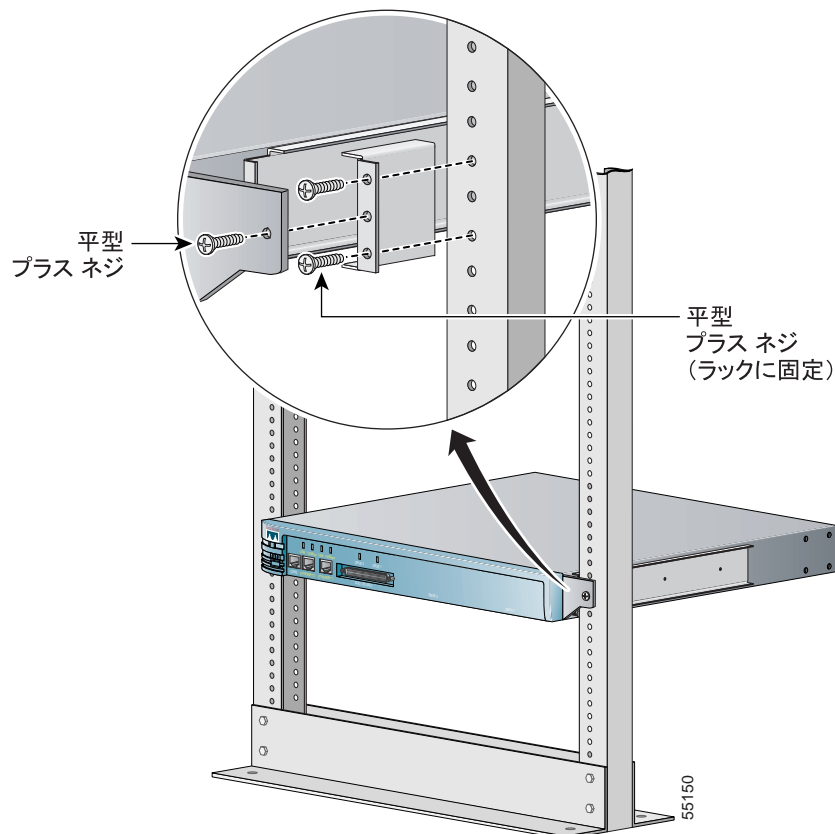
- シャーシ補助ブラケット 2個
- ラックマウントブラケット 2個
- ネジ 6個
- #2 プラス ネジ用ドライバ



(注)

フロントマウント ブラケット アセンブリは、スライド レール システムとしては使用できません。サーバは図2-4に示すように、ラックにしっかりと固定する必要があります。

図2-4 フロントマウント ブラケット



**注意**

このキットに含まれているシャーシ補助ブラケットの定格荷重は、10,000 回の開閉という一般的な使用条件の場合、1 対のブラケットあたり 23 kg (50 ポンド) です。開閉の回数が多くなると、定格荷重は小さくなります。シャーシ補助ブラケットは、IDS-4210 1 台分の重量を支えることが想定されています。

フロントマウント ブラケットを取り付けるには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** IDS-4210 の電源がオフになっており、コンセントに接続されていないことを確認します。
- ステップ 2** 付属しているネジを使用してシャーシ補助ブラケットを IDS-4210 の両側面に 1 個ずつ取り付けます。それぞれの側面に 3 本のネジを使用します。
- ステップ 3** ラックに付属しているネジを使用して、ラックマウント ブラケットをラックに取り付けます。
- ステップ 4** IDS-4210 のシャーシ補助ブラケットを滑らせながら、ラックに取り付けたラックマウントブラケットに押し込みます。
- ステップ 5** ラックに付属しているボルトを使用して、IDS-4210 の前面フランジをラックに固定します。



(注) 正しく固定されると、IDS-4210 がチャンネル バー上で前後に動かなくなります。

■ アクセサリの取り付け